

左向にした右手。五指の指頭を前方にさし掌を右向にした左手。この両手を胸の前右寄りに或程度の間隔を置いて平行にならべてから、それをそのまま胸のちょうど前に置き替え、更に左へ置き替えて行く。

乱雑になった物件をきちんと並べ置く身振
生理日 「羽織」の手まねをする。以前大阪市立雙咄学校の上級の女生徒の間で、何にか約束的に用いられていた手まね。

成年 大人——になる。

青年 若い——人々。

誓約 (イ) 神(人差指で天をさす)——約束
(ロ) 約束——拇印(左掌の上に右手の親指の指頭を押しつける)

西洋 右手の人差指を曲げて指頭を眼に向け、その指をクルリと輪に描く、青い眼を表現したもの。「西洋人」なら、それに「人々」をつけ加えればよい。

勢力 「力」と同じ手まね。即ち拳にした手の腕を曲げて力瘤をして見せる。

世界 五指の指頭を前方にさした掌を左向にした右手、五指の指頭を前方にさし掌を右向にした左手、この両手をかなり広い間隔を置いて平行に向い合わせて、共に五指をまるく彎曲させると一箇の大きな球(地球儀)を両手に持った姿態になる。その両手をそのまま、手首を軸にして前から下へ球を回転させるような両手の運動。即ち地球の自転。

悴 「息子」を見よ。

席 「椅子」と同じ手まね。

石灰 白い—粉。

石炭 黒い—石。

責任 (イ) 右手の五指を彎曲させた掌を右肩の上にかぶせるように置く。肩に負う、即ち責任である。(ロ) この手まねを左右両手で(即ち右掌は右肩に左掌を左肩に置く)表わ

すもよい。

関取 掌を内側にし、五指の指頭を下にさした両手を左右に並らべて腹にあてがい、角力取りのまわしの上につける「下げ」を表わし、左右両手を拳にして、夫々の膝をたたく。——男性

絶縁 (イ) 「関係」の手まねの鎖形に組んだ両手を切り離す。(ロ) 左手の掌を右胸脇下にぴったりつけ、五指の指頭を左にさし掌を内側にした右手を上から左へ斜めに踏切りの遮断機を降すように空間を切り落す。

絶交 「絶縁」と同じ手まね。

絶対 「必ず」のイの手まね。「決まっている」と同じ手まね。

絶望 (イ) 未来—むづかしい—諦らめる。

(ロ) 「がっかり」と同じ手まね。

説明 掌を上向けた左手の上を、掌を左側にした右手の五指の指頭で軽く二、三度たた

くようにする。一般に物事を細く説き聞かせる時に、覺か机の上へする手の身振。

説教 「説明」と同じ手まね。

背広 指頭を上にした両手の親指で夫々胸の左右に背広服の波形の折襟を描く。

善 (イ) 「よろし」の手まね。

(ロ) 道徳—に叶う。

膳 食事(左手の掌を食器として右手で食物を口に運ぶ真似)—机。

詮方なし むづかしい—諦める。

選挙 掌を下に向け五指の指頭を集め合わせた左右両手(左右夫々の手に票を持つ心持)を交互に票を函にさし入れる身振。

先月 月—一つ—過去

洗濯 両手で衣類を持ってもみ合わせ洗う身振。

戦死 戦争—死ぬ。

専心 「一生懸命」の手まねをして、五指